



作家
元国際線乗務員
黒木安馬

【プロフィール】高校時に米国留学後、早稲田大学を経てJAL国際線客室乗務員として30年勤務。世界初の「カラオケ・フライト」や「1万メートル上空・北島三郎機上コンサート」などを実現させる。千葉の自宅は1300坪の山林を開墾してプール、テニスコート、コンサートホール等を手作りする。現在、(株)日本成功学会社長として自己啓発や社員教育で講演中。著書に『ファーストクラスの心配り』『あなたの人格以上は売れない!』(プレジデント社)、『成「幸」学』(講談社)、『出過ぎる杭は打ちにくい!』(サンマーク出版)、『面白くなくちゃ人生じゃない!』(ロングセラーズ)、『小説・球磨川』(上下巻・ワニブックス)などがある。
E-mail:yasuma@myad.jp URL:http://www.3percent-club.com

21世紀だ! ————— 人生・農業リセット再出発 188

チーズ大好きだった醍醐天皇

ゴータマ・知ツカブツタ流に言えば、孔子も仏陀も年代は紀元前500年の同級生。王子だった釈迦は妻子を捨てて出家するが、6年の苦行を重ねても悟りを開けなかった。骨と皮の骸骨みたいにやつれて座している釈迦のリアルな彫刻に、パキスタンの博物館で見入ったものだった。

ヨロヨロと死にそうにあぜ道を歩いているとき、少女が牛乳で作った粥を恵んでくれた。腹が減ってはイクソができない! 腹が満たされた釈迦は、肉体的、精神的にも安寧を取り戻して菩提樹の下で黙想して、モ〜クソ〜!? と念じたのかどうかは不確かだが、やがて、パッと叡智を極めて悟りを開いたと言われている。そうして仏教はできた。牛乳粥を恵んでくれた仏教の恩人である娘の名前は、乳製品メーカー名にも使われている、スジャータである。その牛乳と穀類を煮込んだ粥は、OJAと言い、オジャの語源となる。一般的に仏教では殺生を禁止されているから、牛乳も摂取されないかと思いきや、初めはそうではなかったようだ。

物の事の本当の面白さや最高の味わいを醍醐味と表現するが、これは仏教用語。牛乳製品を発酵させると、最後は濃厚な固形物のチーズやバターになるが、発酵の五段階ごとに、乳、酪、生酥、熟酥、醍醐になる。五つの味を五味と言い、後のものほど美味とする。その最後の「最高の美味」を「醍醐味」と言い、仏教では、五味は教義や經典の深淺の説明に用いられる。『大般涅槃経』は醍醐味、仏陀の最上で真実の教えを言う。サンスクリット語でサルピス・マンダと言うが、乳酸飲料「カルピス」はこの「サルピス・SARPIS」をもじった商標である。

CALPISは、日露戦争開戦2年前の1902年、25歳の僧侶出身である三島海雲が中国に渡り、日本軍相手に軍馬の手配で商売していて、モンゴルに馬の仕入れに行ったことから始まる。蒙

古の民家であるパオの玄関にはどこの家にも甕^{かめ}が置いてあって、そこには馬乳が入れてあり、醗酵した乳酸飲料「ジョッヘ」があった。日本人の健康のために、これを持ち帰って普及させようとひらめく。僧侶出身だけあって、尊敬する人は、釈迦と親鸞聖人。信条は、「国利民福」、天体の運行に合わせた規則正しさが健康の素である“天行健”。乳酸飲料として、大ヒットする。calpisは和製造語だが、英語で発音すると、「cow-piss」と聞こえ、それは「牛の小便」を意味する。笑い話の噂となり、途中で米国向けは名前を変えて、calpicoとした……これはカルピス社長から直に聞いた話である。

醍醐味と言えば、897年に即位した醍醐天皇を連想する。学問の神様・天神さんで有名な菅原道真を登用した天皇である。奈良時代初期の『続日本紀』に乳牛飼育を調査した記録が残っている。平安時代の医書『医心方』には、牛乳で作った酥^そが健康食として勧められている。じつは醍醐天皇は、この最後にできる乳製品であるチーズやバターが大好物だったところから、その名前を名乗ったのである。927年、醍醐天皇が制定した延喜式法令には、「牛乳は一斗を煮て蘇を一升作る」と書いてある。蘇とは、牛乳が固まったチーズを言う。ということは、古代から日本でも乳製品はたしなまれており、天皇も大好物だったあこがれの味覚だったのだ。

だからといって、醍醐天皇をバタ臭い天皇だ! とは言わず、醍醐寺をバター寺とも言わない。最高に洗練された最上級の天皇、最高のお寺と解釈すべきものだろう。その後の日本仏教界では、家畜の肉食も厳しく禁じられ、そこから派生する牛乳さえも飲まれないようになったから本来の意味が消えた。醍醐天皇がニコニコしながらチーズをほお張っている姿を想像するだけで、何かタイムスリップした微笑ましい絵が浮かぶ。